

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) | |
|--------------------|---|--|----------------------------------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | |
| 1 | <input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 事業所独自の理念に基づき運営されている。その内容に関して、重要事項説明書、パンフレットに記載し、また口頭による説明も行っている。 | ○ | より地域への理解が進むように継続して説明と啓発を行っていききたい。 |
| 2 | <input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 必ずしも勤務当初から詳しく説明はしていないが、日々働きながら、当舎の生活を職員に知ってもらいつつ、外部評価等を利用して、理念の共有と実践の理解に努めている。 | ○ | 今後も現在の方法を継続していききたい。 |
| 3 | <input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 職員は、地域住民から事業所の内容について質問された際には、丁寧な説明を心掛けている。また、法人役員、運営推進委員、第三者委員などの関係者がそれぞれに地域住民へ報告している。独自のホームページはあるが、ただしそれが活用されているとは言えない。 | ○ | 家族や地域住民に当舎の理念や運営について十分理解してもらえよう、様々な方法での広報活動を検討していききたい。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | |
| 4 | <input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 地域の各種行事へ参加しながら、地域住民への理解の浸透に努めている。また、利用者が散歩する時など、お互いに挨拶を交わし、地域の方が来訪したり、小学生が来訪することもあり、普段から気軽なつきあいができるように努めている。 | ○ | 今後も継続していききたい。 |
| 5 | <input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の行事への参加は、利用者の体調など状況に合わせて積極的に参加し、地域住民と交流している。また、理事長が近隣地域の総会等に出席し、意見交換等を行い、交流している。 | ○ | 今後も継続していききたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|---|------|--|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 現在、地域住民に役立つ情報提供は特に行っていない。 | | 以前の在宅介護支援センターのような働きができるように具体的に取り組むことを検討したいが、現在の職員体制ではなかなか厳しいのが現状である。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 毎年、外部評価前に各職員が自己評価票を活用して評価を行い、全職員でその評価について検討会を行っている。また、日々の取り組みを重視しており、丁寧な取り組みに努めている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 昨年度9月より取り組み始め、運営推進会議が定着しつつある。当舎の運営に関して資料による報告だけでなく、プロジェクターを利用し、映像を駆使した紹介をしている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 地域包括支援センター主催の包括ケア会議、ケアマネ会議等に参加し、情報を共有している。また、町担当課へ都度連絡や来訪を心掛け、情報を共有している。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 両制度の理解を進めつつ、地域包括支援センターや町社協等と実際に当利用者のケース検討を行った経緯がある。 | ○ | 多くの職員が制度を理解する機会がもてるよう、研修会等があった際、参加を促していき、より理解を深めたい。 |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 事業所内での虐待は確実に予防されている。職員間においても頻繁に話し合いを持ち、職員のストレスがたまらないように努めており、虐待の防止は徹底されている。 | ○ | 研修会に参加し、スタッフ会議で報告しているので、今後も職員を研修会に参加させながら、防止を徹底させていきたい。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|--|--|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、契約書・重要事項説明書を提示し、口頭でも十分に説明を行い、本人や家族の理解と納得を図っている。 | ○ 今後も徹底していきたい。 |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 職員が都度、利用者の対応を行っている。しかし、「外部者へ表せる機会」があるかと言えば、不足していると言える。 | ○ 第三者委員に、より積極的に関わっていただけるよう検討していきたい。 |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 利用者の日々の生活については、毎月の手紙で報告し、緊急性のある内容については、家族等へ電話や訪問などで対応している。 | ○ 今後も継続していきたい。 |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の要望等について、来訪時などに十分に聞くように努めている。時間をかけることにより、家族との関係が好転したこともあるが、全家族が意見を出し、それを十分に反映できているかは判断が難しい。また、外部者へ表す機会が不足していると言える。 | ○ 外部者へ表す機会を設ける具体的取組の検討が必要である。 |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議や1対1での意見交換をする機会がある。職員が発想したことを職員間で検討し、運営者や管理者へ報告確認するなどの工夫を行っている。 | ○ 今後も継続していきたい。 |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 勤務調整が必要な場合は、職員間で話し合いを行い職員間で交代するなど、柔軟な対応に努めている。 | ○ 今後も継続していきたい。 |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の離職による影響は最小限にとどめるように努めている。 | ○ 今後も配慮していきたい。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|---|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>主にスタッフ会議にて、介護技術等の向上を図っている。また、個別対応も行っている。更に、県内で行われる研修会に職員が参加し育成の機会を作っている。</p> | <p>○</p> <p>今後も継続していきたい。</p> |
| 20 | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>多くの職員が交流する機会が持っているとはいえない。そういう機会は必要だが、具体的に組み立てていない。</p> | <p>○</p> <p>検討が必要である。</p> |
| 21 | <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> | <p>可能な限り2日間の連続休暇が取れるシフトを組んでいる。また、職員が別途休暇をとる場合には、職員間で話し合い調整する工夫を行っている。</p> | <p>○</p> <p>職員間の協力は不可欠である。</p> |
| 22 | <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> | <p>日常業務の中で、介助方法を指導するなど、職員のスキルアップに努めている。また、必要と判断する研修に職員の参加を勧めるなどの工夫も行っているが、十分とは言えないかもしれない。</p> | <p>○</p> <p>各職員が向上心を持って働けるよう努めていきたい。</p> |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | <p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | <p>当初から信頼関係を作ることは困難だが、時間をかけて利用者が安心できる環境をつくり、要望等を引き出す取り組みを行っており、効果も上げている。そのため、認知症でよくみられる妄想や帰宅願望などの周辺症状はあまりみられない。みられても長引くことはない。</p> | <p>○</p> <p>利用者が安心して生活できる環境づくりに配慮している。今後も継続していきたい。</p> |
| 24 | <p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | <p>家族からの要望等を聞きつつ、気軽に話ができるような雰囲気づくりに努めている。それによって、信頼関係ができ、家族の不安が少なくなっている。また、そのように取り組んでいる。</p> | <p>○</p> <p>お盆、正月の帰省等、頻度の違いはあるが、家族が来訪する機会は少しずつ多くなっているし、家族も協力的である。</p> |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|------|--|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 主に管理者が担当しており、十分な対応に努めている。また、その時の様子や内容について職員へ報告があり、全職員による一致した対応ができるよう努めている。 | ○ | 管理者を中心として取り組んでいるが、各職員も対応できるようにしていきたい。 |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人の不安を少なくするよう、管理者や職員が話し相手になるなど対応している。あるいは家族と連携して不安を少なくするよう努めている。しかし、緊急性がある場合には、入居してから馴染んでもらえるような工夫をし、安心して生活できるような対応に努めている。 | ○ | 状況に合わせた柔軟な対応ができるよう心がけ、工夫していると思う。 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 畑仕事や料理の下ごしらえ、山菜取りなど利用者が得意とすることなどを活用し、学び支えあう関係づくりに努めている。 | ○ | 利用者一人ひとりの個性を尊重して援助している。今後も継続していきたい。 |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 職員が説明しても利用者が納得しない場合など、家族からの協力を得ることで利用者が理解してくれることがある。利用者がストレスを抱えている場合、家族がそれを解消してくれることがある。 | ○ | 家族にしかできない部分や家族が行うことにより本人が納得することなど必要な内容に関して協力を求め、一緒に本人を支えていく関係づくりに今後も努めていきたい。 |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 入居当初だけでなく、問題が発生する度に家族へ連絡し、これまでの本人の状況(生活や性格、行動等)を聞く機会をもち、本人の理解に努めながら、本人に対する家族の変化を期待し、関係性の改善に努めている。 | ○ | 利用者本人を理解する上で、過去の家族との関係が深く関与している場合があり、それを引き出すことで理解できることもあり、家族自身がそれに気づくことで、関係の改善を図ることができることがあるので、今後も取り組んでいきたい。 |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 必要に応じて距離感を変化させている。本人のなじみの人や場所が断絶しないことを前提とし、タイミングをうかがいながら適切な支援に努めている。 | ○ | 時間が経つことで本人と家族の心理的变化がでてくることもある。同様に一人ひとり違った距離感を大切にし、つかず離れず本人の好む距離感を保ちながら、支援していきたい。 |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 仲の良い利用者同士はほとんど自由にかかわりをもたせている。孤立する利用者への対応は十分とは言えないまでも、スタッフを間に置いて間接的に関わられるような配慮に取り組んでいる。 | ○ | 人数が少ない分、利用者同士、利用者と職員との関係が深くなる。仲が良い場合はよいが、孤立しがちな利用者へは職員が間接的に入りながら対応する。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|--|------|---|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 過去にグループホーム入居者が経済的理由により退居し、在宅復帰した際、精神的安定と専門の医師の診断継続を家族が希望したこともあり、他のデイサービスを利用する他に、週1回当法人のデイサービスも利用していたことがあった。 | ○ | 同様のケースがある場合には、行っていく予定であり、可能な限り柔軟な対応ができるような体制をつくっていききたい。 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 可能な限り本人の意向を汲むようにしている。一人になりたいとき、体調が優れない場合などに無理させない配慮を行っている。本人が昼寝をしたい場合なども、希望を優先させるが、昼夜逆転にならないよう、声がけなどをして対応している。 | ○ | 利用者本人の希望を可能な限り叶えるよう努めている。しかし、集団生活の場として、必要な規則は守ってもらうように説明し納得してもらえるよう努めている。 |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人の話を十分に聞きながら、本人の行動を観察し、家族からも利用者本人の情報を得て総合的に判断し、職員間で十分に検討を行いながら対応している。 | ○ | 今後も利用者一人ひとりに対し、適切な対応を心掛けていきたい。 |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 本人の希望を尊重しつつ、集団生活で最低限守る必要のある内容に関しては説明する。本人の体調や能力を可能な限り見出し、それに合わせた援助を試みており、主に会議等において職員間で話し合い、内容の共有に努めている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族、医師など関係者と話し合いをもち、それを職員間で打合せ、総合的な援助方法を検討し、介護計画に活かすよう努めている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 作成した介護計画を見直し、関係者の意見や要望を取り入れながら、現在の本人の状態を鑑み、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 昼間・夜間日誌を中心に、その他の記録(検食日誌等)に詳しく記入している。また、個別の状況を把握するため、様々な記録方法(個別ケース記録、排便チェック表等)に取り組み、利用者の個別の状況を全職員が把握できるよう努めている。また、日誌等の記載に工夫が必要な場合は、日誌等を適宜変更している。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者や家族が希望した場合、町内外の通院に対応している。利用者が希望した墓参りや兄弟姉妹の家への訪問に対応している。町内の敬老会や保育所などの行事に利用者が参加する際の送迎等、利用者の要望に可能な限り対応するように努めている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 警察(駐在所)が調査にきた。また、消防署も立ち入り検査、救命講習などで協力を得ている。教育機関としては、移動図書を利用している。ボランティアも、小学生から高齢者まで様々な年齢層の人たちが支援してくれている。近所の見守り体制もある。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 地域包括支援センター主催のケアマネ会議、包括ケア会議等で意見交換をしている。また、地域包括支援センターと必要に応じて情報交換を行っている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 当利用者について個別的に権利擁護制度活用の検討を行っている。地域包括支援センター主催の会議においても、情報交換し協働に努めている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 沢内病院の居宅療養管理指導の活用、もりおか心のクリニックの専門科受診、家族の要望による盛岡市立病院等の受診など、その都度適切に必要なとする医療機関への受診へ対応している。また、様々な検査が必要な場合、主に沢内病院で行っている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|---|--|------|---|
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | もりおか心のクリニックの受診を中心に、必要に応じて管理者が密に相談し、連携が取れている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 45 | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 毎月の居宅療養管理指導で、医師と看護師が来訪し利用者を診察していく。その際に、利用者の日常生活等について詳しく話している。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 実際のケースも数件あり、各医療機関と連携ができています。また、今後の連携についても相談していく予定である。 | ○ | 今後も具体的方法について相談しながら、密な連携に努めていきたい。 |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 既に重度化・終末期・看取りのケースに対応を行っている。その場合、家族、医療機関との連携は不可欠であり、密に連絡を取り合いながら対応してきている。職員もそれらに十分対応できるよう備えている。 | ○ | 今後も検討していきたい。 |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 上記47同様、対応を行っている。 | ○ | 新しい職員が、そのようなケースに取り組みながら、経験を積んでいき、十分な体制作りへ向け取り組んでいきたい。 |
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 他施設への入居が数件ある。その際には、当施設での生活ぶりなど情報提供を行うなどの工夫に努めている。また、新しく入居した施設から連絡があれば、情報提供するなどの対応を行うよう心がけている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|--|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者への丁寧な声かけなどを心がけている。記録等の個人情報の取扱いに関しても丁寧に行うよう更に徹底していきたい。 | ○ 今後も継続していきたい。 |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 本人が理解できるよう、ゆっくり(本人が聞こえるような声の大きさで)説明をしている。それでも、本人が理解できない場合は、別な職員が試みるなどしながら、対応するよう努めている。 | ○ 今後も継続していきたい。 |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人ができること、したいこと、職員側で協力できないことを利用者に理解してもらえよう努めている。 | ○ 今後も継続していきたい。 |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 利用者は近所の理・美容院に行くこともある。また、お盆帰省などの時に家族が理・美容院に連れて行くこともあるので、支援はできていると言える。 | ○ 今後も継続していきたい。 |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の後片付け、下ごしらえを中心に準備や後片付けに利用者が積極的に関わっている。また、食事においても本人が苦手としている食品(納豆やひじきなど)一人ひとりの好みに合わせた提供をする。また、噛み切れない場合や食べにくい場合など食材を刻むなど食べやすい大きさにする工夫も必要に応じて行う。 | ○ 今後も継続していきたい。 |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 健康管理との兼ね合いもあり、必ずしも日常的に本人の嗜好に合わせているとは言えない。本人の希望を必ずしも優先していないことに関しては、職員間で検討しながら進めている。 | ○ お酒、たばこなどは禁止している。おやつなどは、利用者によっては、自分で購入して居室にて食べていることを黙認している状態である。希望と管理指導のバランスは大変難しい問題である。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|--|------|--|
| 56 | ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 利用者本人の残存能力は可能な限り引き出すよう努めている。それでも、失禁等をする場合には、オムツ等に対応せざるを得ないが、できるだけトイレへ誘導し排泄していただくように対応している。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者がゆっくり湯舟につかることができるように配慮している。本人ができないことなど援助することとどめ、自立している部分は見守り程度にして支援している。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 病気安静時、寝不足などにより休息が必要な場合に、利用者の体調、状況に合わせて適宜対応している。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 本人が積極的に行うこと(後片付け等)を中心に張り合いがもてるような支援を心がけている。近隣の小学校行事等を見学するなどの外出で気晴らしができていと良いと思う。 | ○ | 全員にできているとは言えないが、一人でも多くグループホームでの生活を楽しみ、充実感が持てるように支援していきたい。 |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理ができる利用者3名は、金銭を所持している。ただし、現在、職員はその金銭管理に関しては関わっていない。 | ○ | 利用者の能力や状況に合わせて、家族と連携しながらその利用者合った金銭管理の方法を模索するように心がけて対応していきたい。 |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 主に職員が外出支援を行っているが、時々家族の協力を得ながら、本人の希望に合わせて外出支援を行っている。また、本人が希望する場合は、公共交通機関を利用して外出することもある。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 利用者の希望を伺いながら、外出する機会をつくっている。職員の発案により外出する場合にも、希望を募り、利用者の気持ちに合わせる対応を行っている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|---|------|--|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の対応は、頻繁に行っている。手紙に関しても、本人が書ける場合には、本人の希望をとって支援を行っている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 家族などが訪問した時には、利用者によっては自ら自室へ案内して過ごしている。気軽な訪問が出来ると良いと思う。 | ○ | 気軽な訪問への具体的な工夫をもっと検討したい。 |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアへの取り組みをしているが、今後研修会等へ職員が参加し、現状を把握するなどより深い理解に努めていきたい。 | ○ | 研修会等への積極的な参加を推進していく。 |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 本人が必要としている場合を除き、鍵をかけずに生活している。利用者の不意の外出に備え、正面玄関には鈴を取り付けて、職員が気づくように工夫している。ただし、職員用出入口は頻繁に職員が出入りするので、安全上施錠している。 | ○ | 今後も継続していきたい。また、居室において本人が鍵を必要とする場合には、取り付けている。そして、緊急安全上、鍵の取り外しに関して、利用者に理解してもらいはずした経緯がある。 |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 利用者の居室への出入は、本人に許可を得て入室している。利用者全員の所在は各職員が把握できている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 各利用者の状況を把握し、状況に合わせて対応を行っている。(例:ふらつきの多い利用者の安全のため、夜間には机やイス、車イスなどを居室の外に出すなどの対応をしている) | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 事故防止のための研修会等に参加し、職員全員で学習する機会を設けており、職員間で話し合い、検討している。災害訓練、救命講習を実施している。近隣に見守りのお願いをし体制づくりをしている。 | ○ | 今後も検討していきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 年1回程度、避難訓練に合わせて普通救急救命講習を行っている。頻度としては決して多くはないので、検討は必要である。 | ○ | 検討が必要である。 |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 夜間の避難訓練を中心に、積極的に訓練を実施し、職員の非常時の対応、連絡体制や方法などを検討する機会を多くもっている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 利用者の状況が変化する度に、家族等へ十分な状況説明を行っている。その際に、同内容についても説明を行うことを心掛けている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 各利用者の状況が変化した場合には、そのケースに合わせた個別記録等を作成し、様々な分析を試みている。その情報を関係者等にも提供し、円滑な対応が可能となっている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 過去の薬と現在の薬についてそれぞれファイルに綴り、全職員が利用者の服薬に関する情報の共有ができるように努めている。また、服薬の変化があった場合には、日誌にその詳しい内容について記載し、情報共有を行っている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 服薬も含め、利用者の体調把握に努め、排便記録をとりながら対応に取り組んでいる。便秘や下痢になっているような状況の場合には、水分量の調整や食べ物(寒天の提供や繊維質の食品)の摂取で工夫している。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 歯磨きが自立している利用者へは積極的に声がけしている。義歯の手入れができない利用者へは職員が援助し、一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) | |
|--------------------------------|---|---|----------------------------------|--|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 普段は、野菜を中心とした通常の食事を提供している。歯の状態が悪い利用者へは、細かく刻むなどの配慮をするなど、その時々状況に合わせて食事提供を行っている。また、利用者の体調や姿勢に合わせて食事場所等を工夫している(例:他利用者の視線が気になる場合は、居室へ移動する。イスで姿勢保持できない場合は、床に座って食事提供する、等) | ○ | 今後も個別支援していきたい。 |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 特に専門的な取り決めをしていない。基本的な予防として、うがい手洗いをし、感染症が流行る時期は特に基本予防の徹底に努める工夫はしている。 | ○ | 他事業所などの感染症予防や対応の取り決めなどを聞き、具体的な取り組みを検討したい。 |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 基本的な賞味期限・消費期限のチェックをはじめ、冷蔵庫、食料庫の管理を行い、調理後も食事前に試食するなどして、新鮮な食事提供に心掛けている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | いかにも施設があります、というような状況でなく、この土地を活用し雰囲気に溶け込むような配慮を行っている。玄関先などを草花で飾るなどの工夫を行っている。 | ○ | 玄関がわかりづらいという指摘をいただいたこともあるが、現状において改善できるところは工夫するように努めている。様々な方からのご意見をもらい更なる工夫を心がけていきたい。 |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールは自然の光が充分に入るようにしている。また、玄関と洋式トイレも自然の光が長時間入るよう、天井を工夫している。台所は、ホールや和室から見ることができ、調理の音も聞こえるようになっている。生活感がでるよう、共用の家具も古いものを取り入れ、四季に合わせて飾りや草花などでの装飾の工夫も行っている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールに利用者が集合することが多いので、和室は一人になることができる場所にもなる。また、各自居室で仲の良い利用者同士入室して、思い思いに過ごしており、一人になりたい時は、利用者自身が居室で過ごしている。そういう場合にもお茶などはホールで他利用者と一緒に過ごせるよう声かけなどに配慮している。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の馴染みの家具などを持ち込んで、自分の部屋という意識をもっていただけていると思う。(家具だけでなく、仏壇や位牌などを持参している利用者もいる) | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 空調の管理は、ホールと玄関にある排煙装置、およびホールにある大型の換気扇によって、空気の流れができるよう工夫されている。室内が暑い場合には、ホールに隣接している居室の利用者に断って、部屋の窓と扉を開放してもらい、空気が流れるようにしている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 浴室の手すりは、介助を必要とする利用者も使用し、自力で浴槽から上がれる工夫がされている。また、必要最低限の手すりに留め、壁や床などの突起などを本人が利用していることがある。また、各利用者の能力などに合わせ、取っ手などを取り付け、不必要になった場合ははずすなど、臨機応変な対応を行っている。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 「便所」の表示や洋式、和式トイレの夜間灯を取り付けている。また、体調を崩した利用者には、内容のわかる表示を必要な時に張り出して(体調が悪いので無理せず寝てください、等)、回復した後に必要ないと判断した時には処分するなどの個々の対応を行っている。 | ○ | 今後も臨機応変に対応していきたい。 |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 天気がよく、あまり暑くない日を選んで、ベランダに出てお茶を楽しんでいる。また、建物入り口の明るく、風通しの良い場所でスイカを食べたり、芋の子会や餅つきなど季節行事を行うこともある。 | ○ | 今後も継続していきたい。 |

| V. サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|------------------|--|-----------------------|--------------|
| 項 目 | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-------------------------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | <input type="checkbox"/> | ①ほぼ毎日のように |
| | | <input type="checkbox"/> | ②数日に1回程度 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> | ③たまに |
| | | <input type="checkbox"/> | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | <input checked="" type="checkbox"/> | ①大いに増えている |
| | | <input type="checkbox"/> | ②少しずつ増えている |
| | | <input type="checkbox"/> | ③あまり増えていない |
| | | <input type="checkbox"/> | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | <input checked="" type="checkbox"/> | ①ほぼ全ての職員が |
| | | <input type="checkbox"/> | ②職員の2/3くらいが |
| | | <input type="checkbox"/> | ③職員の1/3くらいが |
| | | <input type="checkbox"/> | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input checked="" type="checkbox"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | <input type="checkbox"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | <input type="checkbox"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | <input type="checkbox"/> | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input checked="" type="checkbox"/> | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | <input type="checkbox"/> | ②家族等の2/3くらいが |
| | | <input type="checkbox"/> | ③家族等の1/3くらいが |
| | | <input type="checkbox"/> | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 尊敬の心を前提に、もしくは尊敬の念を越えて、家族のように接する対応
- ・ 利用者一人ひとりに合った介護をしている
- ・ 体調の変化を記録に残し、医師・家族との情報交換をしている
- ・ 1日の日程を決めず、その日その人の状態などを見て無理のない生活をしている
- ・ 食事を中心とした身体面の配慮。それによる服薬など医療面における細かい配慮は力を入れていると言える
- ・ 利用者に対し無理をさせず、ゆっくり生活できる環境づくり
- ・ 一人ひとりの健康状態を把握し、常にスタッフ同士の引継ぎをしている（どんな小さなことでも）
- ・ 一人の利用者に変化があった場合、その人を中心に他の利用者にもきちんと配慮している